

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 岡山天体物理観測所建設の頃の写真カラー版 (東京天文台 100周年記念誌資料 2-1-1-1)**

東京天文台 100周年記念誌資料の整理をしており、次々と記事を書いている。岡山天体物理観測所建設工事の写真は、すでに何号にもわたって記事にした。しかし、当時、カラー写真は出始めたころで、カラー写真はあまり残っていない。今回の写真は、東京天文台 100周年記念誌資料—その2—のダンボール箱にあったもので、

1) 紙箱入り写真

1. 天文台記録写真(雑) : 岡山関係 : 25枚、野辺山太陽電波関係 (起工式 1968年5月6日の日付あり) : 10枚、1968年5月6日とある万歳をしている写真、三重県水産試験場日食時の港の写真 : 8枚

の岡山関係 25枚である。この中には今まで見なかった珍しい写真もある。



写真 1



写真 2

写真 1、2、3 は現在の浅口市 (当時の鴨方町) から矢掛町に向かう道路の峠を左にほぼ Uターンして観測所に向かって登る道路の分岐場所の写真である。この峠から観測所に向かう道路は自衛隊の演習の一環で造成が行われた工事である。



写真 3



写真 4

写真 4 は、現在岡山天体物理観測所の本館が建っている場所の様子で、この崖地の右側に本館が建てられるのである。左下に登る道路が見えているが、この道路は 74 吋望遠鏡ドームに向かっており、見えている道路の先端部分あたりから本館に向けて、ここもほぼ U ターンして登ってくる。本館の敷地は斜面を開いた土地で南も崖、北にも崖であり、写真 5 は北側崖の上に 74 吋望遠鏡のドームが見えている様子である。



写真 5



写真 6

写真 6 は、観測所に向かう一般道路の終点で駐車場として使われている場所で、ここを左に曲がって観測所の本館、ドームに向かう場所である。その駐車場に隣接して岡山天文博物館が建設されようとしている工事現場が見える。この岡山天文博物館は岡山県が設置したものであったが、現在は浅口市の所管になっている。



写真 7



写真 8

写真 7 は、74 吋望遠鏡ドームの南に位置するところにあったパイプハウスと呼ばれた保税倉庫である。望遠鏡が観測所に到着した時点では通関手続きが終わっておらず、保税倉庫に格納されていたと聞いている。写真 8 は 74 吋望遠鏡ドームより先に完成していた 36 吋望遠鏡ドームである。これらの写真は、建設工事中の 74 吋望遠鏡ドームの工事現場から見下ろすように撮影されたものである。

写真 9 は、36 吋望遠鏡ドームを見る角度を西に振った光景で、岡山県西部の笠岡市方面を望む景色であり、さらに西に振った景色が写真 10 である。これらの遠景の山々の向こうには瀬戸内海が見え、天気が良ければその向こうに四国の山々が見える風光明媚な景色であり、鞆の浦の仙酔島も見える。



写真 9



写真 10

写真 11 は、建設中の 74 吋望遠鏡ドームの上から東南方向を見た風景で、保税倉庫の入り口が見えている。その向こうのかすかな山は四国の讃岐の山々であり、現在ではこの方向に水島工業地帯が見え、その向こうには瀬戸大橋が見える場所である。



写真 11



写真 12

写真 12 は、74 吋望遠鏡ドームから西を見た光景で、竹林寺山の山頂が見えており、この松林の中には「金比羅さん」と呼ばれる祠があり、現在でも存在している。



写真 13



写真 14

写真 13、14 は既に完成していた 36 吋望遠鏡ドームで、このドームには西側から登る階段が設置されている。写真 14 の左にはドームスリット（扉）が開いた 74 吋望遠鏡ドームが見える。

写真 15、16 は 36 吋望遠鏡の写真である。この望遠鏡は日本光学（現在のニコン）製で、

日本でも大型望遠鏡が制作できなければと 74 吋望遠鏡をイギリスから輸入した際に、国内で製作された本格的望遠鏡第 1 号である。74 吋望遠鏡は当時世界 7 番目の大きさであった。



写真 15



写真 16



写真 17

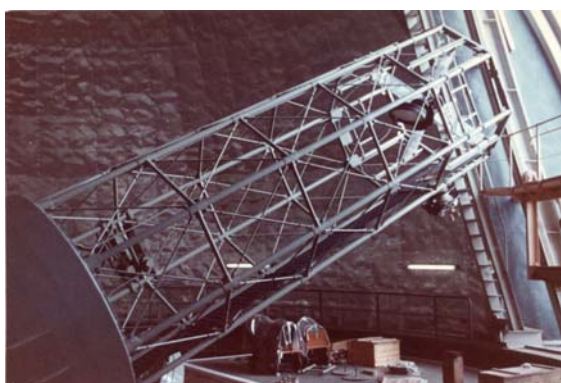


写真 18

写真 17 が、完成した 74 吋望遠鏡ドームで、写真 18～24 は 74 吋望遠鏡の雄姿である。

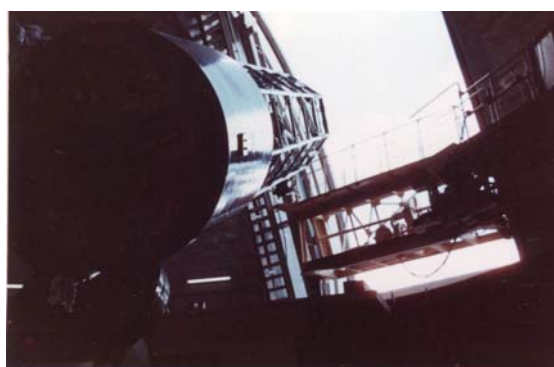


写真 19



写真 20

写真 19、20 の望遠鏡鏡筒の下に見える機械が、ニュートン焦点の観測台である。この観測台は、ドーム開口部の両側のメインアーチに沿って上下し、横移動、旋回、伸縮、首振りの 5 つの動きができ、ニュートン焦点での直接写真撮像観測に活躍した。この観測台はドームを製作した石川島播磨が製作したものである。

写真 21 は、ニュートン焦点直接撮像カメラであり、ダブルスライドのステージに載っており、手札と呼ばれた乾板では補正レンズは使われず、大角と呼ばれた 160 x 160 mm の乾板

が使用される際には補正レンズが挿入された。写真 22 は 74 吋望遠鏡の鏡筒の先端から副鏡部、第 3 鏡部、主鏡を見たところである。



写真 21

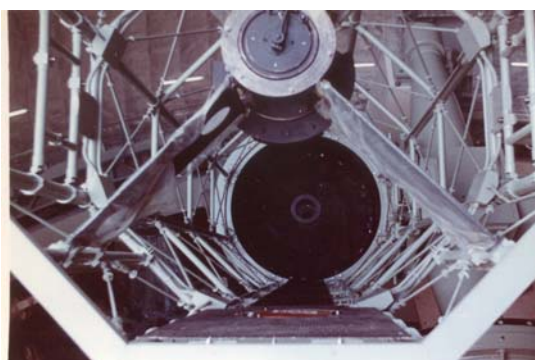


写真 22

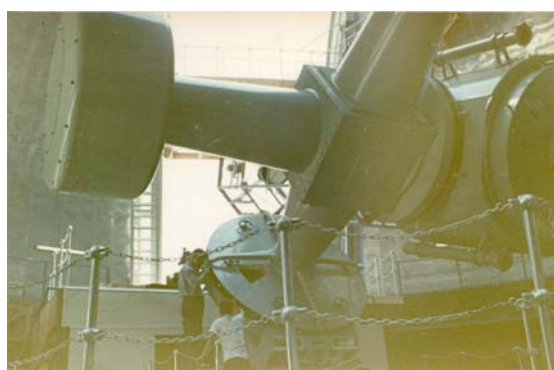


写真 23



写真 24

写真 23、24 は、74 吋望遠鏡を東側から撮影したもので、広角レンズを持っていなかった時代にはこのような写真しか撮れなかった。



写真 25

写真 25 は、竹林寺山山頂から、瀬戸内海を望む 74 吋望遠鏡ドーム、36 吋望遠鏡ドームの観測所風景である。74 吋望遠鏡ドームの扉が開いていることがわかる。遠景の海は瀬戸内海の水島灘である。源平の合戦の一つに水島の戦いがあり、この戦いでは天文学者を連れていた政府軍である平家が勝利した戦いであった。平家側は天文学者を伴っていたため、この戦いの最中起こった日食を知っていたが、そのことを知らなかった源氏軍は慌てふためき敗れたと源平盛衰記に記されている。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp